



JMAグループ 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 「仁愛の心で」地域の皆様とともに

医療と介護の連携強化

質向上とサービス提供量拡大に注力

海老名総合病院や座間総合病院などの医療施設や介護事業所を具央地域で展開する社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス（以下、JMA）。同法人理事長で、JMAグループ最高経営責任者である齋正基氏に、2025年の抱負や今後の展望などを聞いた。

「2025年の抱負や方針を教えてください」

JMAグループは、医療と介護を通じた社会貢献を目的に、患者さんや利用者さんがワンストップで必要なサービスを受けられる地域包括ケアシステムを構築してまいります。良質で適切な



JMAグループ最高経営責任者 齋正基氏

サービスを提供する地域で、さらなる深化を求めたいと考えています。地域包括ケアシステム構築の先駆けや課題について教えてください。医療や介護といったサービスを切れ目なく提供する循環は、ある程度構築できていると感じています。しかし高齢化の進展を考えると、事情があつて病院に通えない方々のための訪問分野の

優先するのは、質の向上とサービス提供量の拡大であると考えています。このためすべての職員が100%の能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。デジタル化の推進はその一例で、職員が本来の業務に集中できるように、効率化と負担軽減を図っているところ

「業務の効率化について具体的に聞かせてください」

業務交代時の申し送りや医師や看護師がパソコンに向かってデータ入力する時間が大幅に短縮され、患者さんに会って一具合はどうですか？と直接声をかけたり、様子を見に行くなど、本来の業務に費やす時間が増えました。業務の効率化によって、患者さんや利

用者さんのために最善を尽くすというJMAグループが創設時から大切にしている「仁愛の心」の理念に一歩近づいたと受け止めています。

「技術が進んでも人の手は大切になりますね。我々グループが地域で展開する事業は人財の力が何よりも大切です。教育や育成はもちろんですが、一人ひとりのライフステージや状況は様々なので、安心して働くことができる環境も大事になります。今年4月から育児や介護中の職員支援体制の拡充や短時間勤務制度の新設などに取り組みます。時代に合わせた最善策を模索しながら、今後50年、100年続く地域に根ざした法人をめざしてまいります」と思いま

節目の年 決意新たに

今年2月に開院20周年を迎える海老名メディカルプラザ（渡邊茂樹院長）は、17診療科を備えた大型クリニック。同じJMAグループで、隣接



渡邊茂樹院長

季節性のインフルエンザや腹痛といった日常的に起こる症状だけでなく、専門性の高い診療にも対応。なかでも糖尿病センター外來は、糖尿病診療の提供に努めています。

診療を専門とする医師や看護師、糖尿病療養指導士、管理栄養士が連携し、患者一人ひとりに寄り添った総合的な治療方針を提案している。社会情勢や地域の特性を見ながら、診療体制の整備を進めているのも院長で、高齢化の進展を背景に国が推進している在宅医療については昨年7月に体制の見直しを図られた。医師を増員し、通院が難しい状況にある患者の自宅を訪問し、適切な診療の提供に努めています。



渡邊院長は開院20周年を迎えるにあたり、「地域に対して今まで以上に貢献できる医療機関をめざして、弛まぬ努力を継続していきたい」と節目の年に決意を新たにしました。

「健康寿命延伸」支える

カラダテラス海老名（谷口佳浩施設長）は、健康センターとクリニックを併設する複合型医療施設。人間ドックや健康診断の結果をもとに、必要に応じてその日のうちに内科の診療を受けられるのが特長だ。3年前の開院当初から「受けて良かった健診」をモットーに掲げ、疾病の予防と早期発見を適切な医療の提供につなげている。



谷口佳浩施設長

海老名駅近くというアクセスの良さ、健診後の診療と通院をワンストップで求める患者ニーズの高まりで、健診の受診者数は増えているという。高齢化の進展を背景に、健康寿命の延伸が社会的な課題にもなる中で、同施設は今後、フレイル予防にも注力する予定だという。高齢者の認知や身体機能の低下を意味するフレイルは、要介護状態への移行リスクを高めるといわれている。同施設では、健診を通じて生活習慣の見直しのアドバイス等も行うっており、健康意識の向上に貢献したいと考えている。



谷口施設長は、多職種による連携も視野に入れ「フィットネスジムと連携して、医師と理学療法士が監修したフレイル予防を目的とした運動プログラムを提供するのにも良いかもしません」という構想も描いている。

「患者経験価値」向上へ

海老名総合病院（服部智任病院長）は、県央地域の基幹病院として、年間1万台を超える救急車の受け入れを行うなど、神奈川県内でもトップクラスの救急医療体制が整っている。

専門性の高い医師や看護師といった医療スタッフと高度な医療機器を備えており、昨年4月には救急集中治療科を新設。今まで以上に迅速で質の高い高度急性期医療を提



服部智任病院長

供し、地域住民の生命と健康を守っている。医療体制の強化と療養環境の改善を目的に、昨年5月に新棟西館を開設し、重篤な患者の受け入れ体制は飛躍的に向上した一方で、服部病院長は「医療スタッフが今後経験を重ねて理解度を高めることで、必要とされる医療をしつかり地域に届けることができるはず」と語る。

また、患者が医療機関で受ける経験価値の向上にも目を向ける。患者の経験価値の向上は、医療への信頼度や治療への積極的な協力、医療従事者のモチベーションアップ

「患者が医療機関で受ける経験価値の向上にも目を向ける。患者の経験価値の向上は、医療への信頼度や治療への積極的な協力、医療従事者のモチベーションアップ

「患者が医療機関で受ける経験価値の向上にも目を向ける。患者の経験価値の向上は、医療への信頼度や治療への積極的な協力、医療従事者のモチベーションアップ

地域ニーズに応える医療

開院9年目を迎える座間総合病院（渡潤病院長）は、地域住民の健康を支える医療機関として、その役割を着実に果たしている。

一般急性期病棟や回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟に加え、昨年9月には地域包括医療病棟を開設。誤嚥性肺炎や腰椎圧迫など、入院治療を必要とする高齢者を積極的に受け入れている。高



座間総合病院

齢化が進展する中で渡潤病院長は「地域の医療ニーズを先読みし、適切な医療を提供することが私たちの使命」と語る。また一般内科や整形外科、小児科など21科の診療科を標榜し、幅広い医療ニーズに対応。一昨年には救急科を開設し、座間市の救急搬送率の向上だけでなく、地域住民に安心と安全を提供する体制強化の一助を担った。同病院は米軍から返還された土地に建てられた背景もあり、キャンパス間の民間人に限定した医療サポートを提供。在日米軍から派遣された医療通訳が常駐する国内初の

「患者が医療機関で受ける経験価値の向上にも目を向ける。患者の経験価値の向上は、医療への信頼度や治療への積極的な協力、医療従事者のモチベーションアップ



井川聡院長

今里クリニック（井川聡院長）は「地域に根差し、信頼されるクリニック」をモットーに海老名市南部の地域医療を支えている。

内科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、呼吸器内科など幅広い診療科目を設け、それぞれに専門医が常駐。人工透析室も備えており、一度の通院で複数の診療科を受診できるのが特長だ。JMAグループの医療施設なので海老名総合病院との連携体制も整っており、重篤な症状や精密



同クリニックは無料シャトルバス運行に杉久保・大谷ルートを新たに増設し、ますます通いやすくなっている。

- 介護老人保健施設 **アゼリア**
- 特別養護老人ホーム **さつき**
- 特別養護老人ホーム **シェ・モア**
- 特別養護老人ホーム **和心**
- 特別養護老人ホーム **陽だまり**
- サービス付き高齢者向け住宅 **カサボニータ海老名**
- 地域包括支援センター **海老名東地域包括支援センター**
- 地域包括支援センター **海老名中央地域包括支援センター**
- 居宅介護支援事業所 **ケアネット海老名第1**
- 居宅介護支援事業所 **ケアネット海老名第2**
- 居宅介護支援事業所 **ケアネット座間**
- 居宅介護支援事業所 **JMA海老名訪問看護ステーション**
- 福祉用具貸与・販売・住宅改修事業所 **ケアレンタル海老名**
- 通所リハビリテーション事業所 **今里リハビリステーション**
- 訪問介護事業所 **今里ヘルパーステーション**
- 認可保育所 **すこやかハウス**